

目標	Ⅸ	文化芸術の振興		
施策	26	文化芸術活動の充実		
主な取組		○ 文化芸術活動への参加の促進		
		○ 子供たちの文化芸術活動の充実		
		○ 障害者の文化芸術活動の支援		
		○ 県立美術館等における活動の充実		
		○ 地域における子供たちの多様な活動の場と機会を提供できる環境の整備（施策17、23、28にも記載）		
担当課		生涯学習推進課、保健体育課、義務教育指導課		
主な事業				
事業名	予算額 (千円)	事業の概要・実績	事業の自己評価	担当課
埼玉県芸術文化祭開催費	8,558	県民の文化活動への参加意欲の喚起と、地域文化の振興に寄与するため、埼玉県芸術文化祭を開催（埼玉県美術展覧会、地域文化事業、芸術文化ふれあい事業、協賛事業）する。 ○第73回埼玉県美術展覧会 ・県民の創作した美術作品を近代美術館で展示・公開（日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の6部門） ・出品点数：3,114点、出品者数：2,630人、観覧者数：21,260人 ・作品制作の負担を軽減し、より出品しやすくするため、「日本画」及び「洋画部門」の作品サイズの下限を撤廃 ○地域文化事業 ・市町や文化団体との共催により、地域に密着した伝統芸能、音楽コンサート、美術展覧会などを県内各地で開催 ・20市町延べ23事業を実施、70,945人が参加 ・35団体延べ36事業を実施、663,003人が参加 ○芸術文化ふれあい事業 ・文化団体が学校や公民館などに出向いて、公演や実技指導を行う。 ・29事業実施、4,205人が参加 ○協賛事業 ・埼玉県芸術文化祭の趣旨に賛同して行われる各種芸術文化事業を県芸術文化祭の協賛事業として承認 ・95事業実施、300,334人が参加	埼玉県芸術文化祭の参加者人数は、新型コロナウイルス感染症の拡大により一時大きく減少したが、令和5年度には100万人を超え、令和7年度も100万人を超えるなど、多くの県民に文化芸術活動への参加の場や発表の機会を提供することができた。（参加者数：1,062,377人） 県民の興味・関心の高い映画やアニメーションなどの映像文化関連事業を取り入れていないことが課題であったが、令和6年度から実施団体等に周知募集を行い、令和7年度は、映像文化関連の事業が3事業（令和5年度は0事業、令和6年度は5事業）協賛事業に参加した。 事業全体としては昨年度より参加者数が減少してしまったため、更なる参加者数の増加に向けて、県の発信力を高め、既存の文化芸術事業に加え、引き続き、映像文化など新たなジャンルの文化芸術事業を県民に対して広く周知をするなど、より幅広く、埼玉県芸術文化祭への参加を呼び掛けていく必要がある。	生推

社会教育関係 事業費補助	975	文化芸術活動への県民参加を促進するため、社会教育に関する事業を行う文化団体に対して補助金を交付し、継続的な文化事業の実施を支援する。 ○文化芸術団体の事業開催を支援 ・社会教育に関する事業を行う文化団体に対し、事業費補助金を交付 ・埼玉県吹奏楽祭：45千円、埼玉女流工芸展：350千円、埼玉県文化振興の集い：580千円	文化芸術団体が継続的に事業を実施できるよう支援を行うことができた。 引き続き、文化芸術団体に所属する県民や、開催事業に参加する県民が、文化芸術活動に取り組み、参画できるよう、事業の実施を支援していく必要がある。	生推
社会教育関係 団体運営費補助	2,305	【芸術文化団体に対する補助】 文化芸術団体の健全な育成を図るため、運営を支援する。 ○文化芸術団体の運営を支援 ・社会教育に関する事業を行う文化団体に対し、運営費補助金を交付 ・埼玉県文化団体連合会：1,540千円、埼玉県合唱連盟：250千円、埼玉県美術家協会：420千円、埼玉県吹奏楽連盟：95千円	県内の文化芸術活動の推進を継続していくために不可欠な、比較的財政基盤が弱い弱である文化芸術団体の運営を支援し、健全な育成を図ることができた。 引き続き、文化芸術の発信拠点となる文化芸術団体を支援するとともに、県内の文化芸術活動の推進に取り組んでいく必要がある。	生推
部活動指導充 実支援事業 (施策6、10、 17、23にも掲 載)	76,514	【地域部活動推進事業・運動部】 地域の実情に応じた地域クラブ活動の整備・充実を図るため、実証事業を実施する市町村等への普及・啓発や委託を実施する。 ○実証事業参加市町（学校） ・（南部）戸田市、蕨市、新座市、和光市、上尾市、鴻巣市、北本市、伊奈町 ・（西部）川越市、狭山市、鶴ヶ島市、ふじみ野市、小川町 ・（北部）本庄市、熊谷市、深谷市、寄居町 ・（東部）行田市、越谷市、久喜市、白岡市、三郷市 ・（県立）伊奈学園中学校 ○人材バンク登録者数 ・運動部：61人	実証事業は22市町及び県立伊奈学園中学校で実施した。 県民を対象としたシンポジウムの実施、市町村担当者を対象とした実証事業報告会及び研修会、リーフレットの配布、実証事業22市町の取組を紹介する動画の作成・周知、人材バンクの登録対象者の拡大、市町村教育委員会への訪問ヒアリング等を実施し、地域の実情に応じた地域クラブ活動の整備・充実を図るための普及・啓発や委託を実施した。	保体
		【地域部活動推進事業・文化部】 地域の実情に応じた地域クラブ活動の整備・充実を図るため、実証事業を実施する市町村等への普及・啓発や委託を実施する。 ○令和7年度実証事業の実施自治体（文化部）：8市町、県立学校1校 ○埼玉県地域クラブ活動シンポジウムの開催：2回（9月、1月） ○人材バンク（文化・芸術）の管理・運営、登録者数：19人	実証事業は8市町及び県立伊奈学園中学校で実施した。 県民を対象としたシンポジウムの開催、市町村教育委員会への訪問ヒアリング等を実施し、国の実証事業の成果や、独自の取組を行っている自治体の好事例を県内に発信し、地域の実情に応じた地域クラブ活動の整備・充実に向けた普及・啓発及び委託を実施した。 また、地域クラブ活動の指導者確保を目的として、人材バンクの管理・運営を行った。専門性や資質・能力を有する指導者を確保するため、人材バンクの登録対象者の拡大等について検討する必要がある。	義指

施策指標の達成状況・原因分析	●埼玉県芸術文化祭への参加者数（人）【出典：埼玉県による実績調査】 <table><tr><th></th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th><th>R8</th><th>R9</th><th>R10</th></tr><tr><td>実績</td><td>977,695</td><td>1,010,545</td><td>1,117,257</td><td>1,062,377</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>年度目標値</td><td></td><td></td><td>1,100,000</td><td>1,200,000</td><td>1,300,000</td><td>1,400,000</td><td>1,500,000</td></tr></table> 【原因分析】 協賛事業の事業数が減少（令和5年度71事業、令和6年度111事業、令和7年度95事業）し、全体の参加者数が伸び悩む要因となった。県民の興味・関心の高い映画やアニメーションなどの映像文化関連事業を実施する団体等に周知募集を行うなど、広報活動を行った結果として、令和7年度には新規に22事業の参加が得られたが、大幅な新規参入を得られた令和6年度の事業数を、令和7年度は維持できなかったことが、事業数全体の減少につながったと考えられる。								R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	実績	977,695	1,010,545	1,117,257	1,062,377				年度目標値			1,100,000	1,200,000	1,300,000	1,400,000	1,500,000	生推
		R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10																								
実績	977,695	1,010,545	1,117,257	1,062,377																												
年度目標値			1,100,000	1,200,000	1,300,000	1,400,000	1,500,000																									
学識経験者の意見・提言	芸術文化祭は約100万人の参加者を誇る重要な文化事業であり、継続的な開催が求められる。一方、毎年同一の出展者が目立ち新規参加者を増やしていくことは課題であるため、若年層をはじめ新規参加者の呼び込みが急務である。特に映画やアニメーションといった現代的な分野の取り入れは多世代の関心を引きつける有効な手段であり、県がこれらの積極的な導入・広報に取り組むことを強く期待する。 芸術文化祭は多くの県民が参加する文化行事であり、県が事業体制を整備し支援していることは大変意義深いと考える。一方で、文化活動のバックアップ体制はスポーツ分野と比較して一般的に弱いとあり、この点の強化は喫緊の課題である。特に若者や子供の参加増加を目指し、県は広報活動の充実に注力すべきである。将来的な文化活動を持続可能にするため、積極的な施策の推進を期待する。																															
今後の取組	既に参加している文化団体の参加継続を図るとともに、新規参加団体の増加に向け、事業内容の充実と広報活動の強化に取り組む。また、若年層の参加を促進するため、映像文化等の現代的分野における参加団体の拡大に努めるとともに、若年層を意識した情報発信を拡充し、より多くの県民が将来にわたり文化芸術に親しみ、楽しめる環境作りを推進する。							生推																								
	学校部活動の地域展開については、広域自治体として改革に向けたリーダーシップを発揮し、第2期埼玉県地域クラブ活動推進計画（前期：令和8年度～令和10年度）に基づいて、県内市町村に対し、きめ細かな支援を行っていく。							保体																								
	部活動の地域展開に関して県民の理解を深めるためのシンポジウムや市町村教育委員会への訪問を通して、県内の市町村が円滑に文化部活動の地域展開を進められるよう支援していく。また、県内外の好事例等を県内市町村に共有し、引き続き地域展開への理解促進を図る。							義指																								

目標	Ⅸ	文化芸術の振興		
施策	27	伝統文化の保存と持続的な活用		
主な取組		○ 伝統文化の保存・活用・価値の再評価		
		○ 伝統文化の魅力発信と伝統文化を学ぶ機会の充実		
		○ 市町村の取組への支援		
担当課		文化財・博物館課		
主な事業				
事業名	予算額 (千円)	事業の概要・実績	事業の自己評価	担当課
文化遺産調査活用事業	3,114	【無形民俗文化財調査研究費及び自然遺産調査研究費】 埼玉の歴史文化を再発見し、埼玉の魅力を発信するため、潜在的な歴史文化遺産を新たに掘り起こすための学術調査等を実施する。 ○無形民俗文化財調査事業として、現地調査（玉敷神社）、「巡り・廻りの民俗行事」総括報告書Ⅱの刊行、総括映像作品「玉敷神社のお獅子さま」の制作。 ○自然遺産：「長瀬自然遺産」の現地調査（長瀬町、地質・動物・植物分野）など	県立博物館が実施する学術調査により、埼玉県内のこれまで知られてこなかった民俗行事の記録・普及や、自然遺産長瀬の動植物・地質資料の収集を行うことができた。 引き続き、県が実施することが適切な分野の文化遺産について、学術調査を実施し、埼玉の魅力を発信を行っていく。	文博
文化財保護事業補助	97,351	本県の貴重な文化財の保存・継承・管理を図るため、文化財の所有者・管理者等が行う文化財の保存事業に対し補助金を交付する。 ○国指定文化財、県指定文化財の保存事業（国指定・登録23件、県指定46件） ○市町村が実施する試し掘り等の調査に対する補助金の交付（41件） ○県指定無形民俗文化財の後継者養成を目的とした事業（8件）	補助金の交付により、毀損の拡大や倒壊の恐れのある文化財の保存修理工事等を行い、文化財の保存措置を適切に行うことができた。 補助金の手続きは、市町村教育委員会を通じて文化財の所有者・管理者等の補助事業者とやり取りをしているため、補助事業者との間に齟齬が生じることのないよう、引き続き丁寧に連絡等を行い適切に補助していく。	文博
文化財管理事業	2,688	県内の国・県指定文化財の適切な保存活用を推進するため、文化財の保存に必要な調査・協議、広域文化財や県管理文化財の保存活用に必要な事業を実施する。 ○文化財の適切な保存管理に必要な協議会への参加、有識者会議の開催、指定文化財調査報告書刊行等 ○7県で構成する「古代歴史文化協議会」における「古墳時代の地域間交流」に関する共同研究の実施 ○博物館法に基づく「登録博物館」の登録及び「博物館相当施設」の指定に係る審査業務	文化財関連会議の開催や、新たに指定等を行った指定文化財の調査報告書刊行等を行い、県内文化財の保存活用や周知に努めた。 古代歴史文化協議会では、8月7日～8日に和歌山県において研究集会を実施し、令和9年度の成果発表会に向けた途中報告を行った。 博物館法に基づき、9件の登録審査、1件の博物館相当施設指定要件確認を行った。本審査は、設置法人の適格性や、博物館の運営体制、施設・設備等が、同法が定める登録博物館及び博物館	文博

			相当施設の要件を満たすことを、書類及び実地調査で審査・確認するものであり、学術経験者の意見も聴取した上で実施した。	
特別史跡埼玉古墳群保存活用事業	39,846	特別史跡埼玉古墳群を次世代へ確実に継承するため、史跡の保存・整備を実施する。 ○史跡の誘導板の設置 ○愛宕山古墳の発掘調査 ○鉄砲山古墳の整備工事の実施	誘導板の設置により、古墳群に訪れる人の利便性が向上した。愛宕山古墳の発掘調査では古墳の立体構造や平面形態が明らかになったほか、築造年代を明らかにする資料が出土し、今後の保存活用に資する情報を得ることができた。また、鉄砲山古墳の理解促進を目的とした周堀復元整備工事を実施した。	文博
埋蔵文化財保存活用事業	77,992	埋蔵文化財保護の啓発のため出土文化財を学校教育や社会教育において活用する。また、出土文化財を次世代へ確実に継承するため、整理及び保存処理を行う。 ○「古代から教室へのメッセージ事業」の実施（42校 参加2,703人） ○遺跡見学会の実施（2回 参加244人） ○ぜい弱な出土品である金属製品（320点）の保存処理	小中学校、特別支援学校での実物資料を用いた出前授業の実施や、県民を対象に遺跡見学会での遺構、遺物の公開を通じて、埋蔵文化財保護思想の啓発を図ることができた。また、ぜい弱な金属製品の保存処理を実施し、出土資料の活用が可能となった。	文博
県立博物館・美術館等における活動の充実	148,047	郷土埼玉の歴史や伝統文化などの魅力を発信するため、県立博物館・美術館等において企画展・特別展等を実施する。 ○歴史と民俗の博物館：企画展「名所大宮―鉄道のまち・公園のまち―」（観覧者数：7,096人）ほか ○さきたま史跡の博物館：企画展「輝く武器・光る技―古墳時代の飾り大刀―」（観覧者数：9,021人）ほか ○嵐山史跡の博物館：企画展「東山道と「鎌倉街道」（観覧者数：3,189人）ほか ○近代美術館：企画展「Nerhol 種蒔きと鳥 Misreading Righteousness」（観覧者数：11,007人）ほか ○自然の博物館：企画展「新収集品展」（観覧者数：32,634人）ほか ○川の博物館：特別展「昆虫いろいろ～標本から見える昆虫の世界～」 （観覧者数：34,610人）ほか ○文書館：企画展「書類のなかの戦争―戦時下に生きた人びと―」（観覧者数：1,503人）ほか ○さいたま文学館：企画展「ぞうのエルマー絵本原画展」（観覧者数：3,472人）ほか	歴史と民俗の博物館では、大宮駅及び大宮公園の開業140周年にあたり、明治時代以降の大宮周辺地域の歩みと魅力を紹介する企画展「名所大宮―鉄道のまち・公園のまち―」を開催した。 また、さきたま史跡の博物館では、古墳時代の権力の象徴であるとともに、当時の最先端の技術が結集した飾り大刀について、県内出土資料を中心に紹介する企画展「輝く武器・光る技―古墳時代の飾り大刀―」を開催した。 その他の博物館等においても各館の特色を生かした企画展等の実施を通して埼玉の魅力を発信した。引き続き、興味・関心を引き付ける展示を企画し、幅広い利用者に文化財に触れるきっかけを提供していく。	文博
県立博物館・美術館等における教育・普及事業	19,679	県民の豊かな感性や創造性を育むため、県立博物館・美術館等において、体験プログラム等の教育普及活動を実施する。 ○歴史と民俗の博物館（常設体験プログラム開館日全日実施、講座・体験プログラム32回実施、計7,843人参加、出前授業等44校実施、2,536人参加）	各博物館・美術館等の特性や事業目的に合わせた体験プログラム等の教育普及活動や、児童生徒への出前授業の実施により、県民が文化芸術に触れ、豊かな感性や創造性を育む機会を提供することができた。	文博

		○さきたま史跡の博物館（講座・体験プログラム30回実施、計1,016人参加、出前授業等70校実施、3,177人参加） ○嵐山史跡の博物館（講座・体験プログラム7回実施、計1,025人参加） ○近代美術館（講座・体験プログラム35回実施、計3,351人参加、出前授業68校実施、4,608人参加） ○自然の博物館（講座・体験プログラム14回実施、計378人参加、出前授業等32校実施、1,708人参加） ○川の博物館（講座・体験プログラム28回実施、計6,468人参加、出前授業61校実施、3,147人参加） ○さいたま文学館（講座・体験プログラム18回実施、計490人参加） ○文書館（講座・体験プログラム12回実施、計776人参加、出前授業7校実施、519人参加）		
博物館、美術館におけるSNS等による情報発信	0	より多くの県民が伝統文化に触れるきっかけを作るため、作成した収蔵資料の3Dモデルの公開や、オンライン講座・出前授業等を実施するなど、ホームページやSNS等を活用した情報発信を行う。 ○8館の情報発信 ・X：令和7年度ポスト数：2,347回、フォロワー数：65,698人 ・YOUTUBE：投稿総数：249本、再生回数：525,386回 ・オンライン講座：16件、参加者数1,187人	各博物館・美術館においてSNS等を活用し、企画展やイベント、収蔵品の紹介を行い、博物館、美術館の魅力を広く伝えることができた。 また、それぞれの特徴を生かした映像コンテンツの配信やオンラインによる講座の実施により、多くの県民に学びの機会を提供することができた。 より多くの県民に館の魅力が伝わるよう、SNS等を活用した情報発信を進めていく。	文博
遺跡地図GISによる文化財保護事業	22,990	周知の埋蔵文化財包蔵地に係る手続き円滑化のため、県内遺跡情報と地図のGIS（※）上での公開に向けたデジタルデータの作成 ・公開予定数：約10,000件 ・周知の埋蔵文化財包蔵地に係る手続き処理件数：4,065件（R6）（※GIS・・・「地理情報システム」様々な情報を一つの地図データ上で閲覧することができるサービス。）	県内遺跡約10,000件について、範囲・名称等の基礎情報を100%デジタル化した。 令和8年度は基礎情報のうち手続きに係る情報を精査した上で、公開範囲を決定し、当年度中には整備したデータと地図をGISで公開・運用する予定である。このことにより、1件当たり50分程度かかっていた、周知の埋蔵文化財包蔵地に係る手続きを15分程度に短縮可能な見込みである。	文博

施策指標の達成状況・原因分析	●県立博物館等の年間利用者数（人）【出典：埼玉県による実績調査】							文博																						
	【原因分析】 歴史と民俗の博物館において、大宮駅開業・大宮公園開園140周年に合わせて地域の魅力を紹介した企画展を実施した。また、近代美術館においては、子供達が美術に関心を抱き、積極的に美術館を活用することを目的としたアート体感ワークショップ「MOMASのとびら」を実施する等、各館でそれぞれの特色を活かしながら話題性や機を捉えた展示や教育普及事業を実施するとともに、展示情報等に係る記事を計画的にSNSで投稿するなど積極的な広報活動を行ったことが、利用者増に結び付いた要因である。 <table><thead><tr><th></th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th><th>R8</th><th>R9</th><th>R10</th></tr></thead><tbody><tr><td>実績</td><td>627,505</td><td>606,572</td><td>911,830</td><td>939,350</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>年度目標値</td><td></td><td></td><td>779,000</td><td>834,000</td><td>890,000</td><td>945,000</td><td>1,000,000</td></tr></tbody></table>									R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	実績	627,505	606,572	911,830	939,350				年度目標値			779,000	834,000	890,000
	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10																							
実績	627,505	606,572	911,830	939,350																										
年度目標値			779,000	834,000	890,000	945,000	1,000,000																							
学識経験者の意見・提言	博物館等の年間利用者数の増加は、取組の成果として高く評価できる。しかし、民間の調査で埼玉県の魅力度が他県に比べ低い現状を踏まえると、県内外から幅広く来訪者を呼び込む施策が欠かせない。特に県外からの集客を意識した効果的な情報発信が重要であり、博物館や文化施設の魅力を積極的に発信することが求められる。これにより、利用者数の更なる増加と地域のイメージ向上が期待されるため、県内だけではなく県外に向けての広報活動の強化に一層取り組むべきと考える。																													
	博物館における利用者の増加は高く評価できるものであるが、利用者数を増やすためには宣伝だけでなく、企画や展示の内容の質が重要であり、その基盤となるのは学芸員の専門的な知識や情報収集活動である。したがって、学芸員の能力向上や活動支援は重要であり、教育委員会はこうした専門職のバックアップ体制の充実に積極的に取り組み、博物館展示の質的向上と地域文化の発展に取り組むことを期待する。																													
今後の取組	各県立博物館・美術館等の特徴を生かした魅力的な展示事業の実施に努めるとともに、引き続きSNSをはじめとした多様な広報活動を実施することで、県外に向けても積極的に魅力を発信していく。 また、博物館展示の質的向上等のため、引き続き学芸員の資質向上を目的とした体系的な研修を実施するとともに、文化庁主催の研修などへの参加も呼び掛けていく。								文博																					